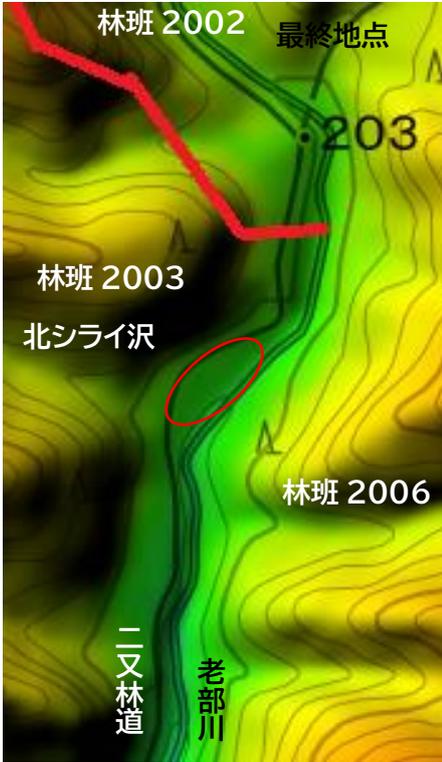




六ヶ所村の魅力を発掘・発見・発信！

機関車の方向転換は、どうしていたのか？



最終地点の陰影起伏図
※出典:国土地理院地図に一部加筆

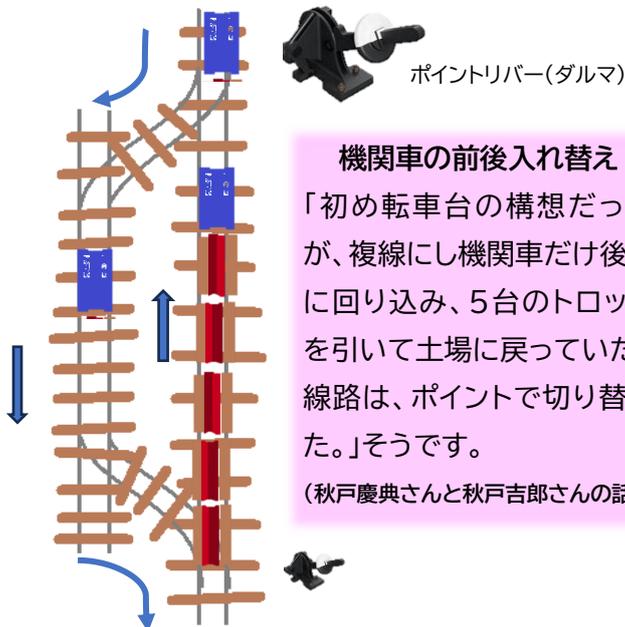
「線路が二つに分かれてガチャガチャやった」秋戸慶典さんの話と、「円く回って機関車は方向転換した」秋戸吉郎さんの話から、事務所より約1 km地点で、林班3で機関車の方向転換ができそうな場所が1カ所ありました。ここならデルタ線（三角線）の方向転換ならできそうで、手動のポイントリバーで方向転換ができ、実際に他の森林鉄道（屋久島：青森駅）でもこの方法が使われていました。



青森駅のデルタ線:国土地理院地図

しかし、6月30日（日）に、秋戸淳一さんが、父慶典さんと秋戸吉郎さんから再度聞き取った結果、デルタ線ではなく「本線の横にもう一本線路を敷き、帰りはバックで帰った。2カ所のポイント切り替えがあり、9kgのレールを使い、尾駈山事務所までは6kgのレールを使用していた」ということがわかりました。慶典さんの「ガチャガチャ」というのは、ポイントリバーのことでした。

ト切り替えがあり、9kgのレールを使い、尾駈山事務所までは6kgのレールを使用していた」ということがわかりました。慶典さんの「ガチャガチャ」というのは、ポイントリバーのことでした。



機関車の前後入れ替え
「初め転車台の構想だったが、複線にし機関車だけ後ろに回り込み、5台のトロッキを引いて土場に戻っていた。線路は、ポイントで切り替えた。」そうです。
(秋戸慶典さんと秋戸吉郎さんの話)



最終地点の現在の様子:ここだけが右側に広場があり、木柱が現在でも数本立っており、土場として利用されているようです。林道には、このような入れ替え場所が複数あったそうです。